



fukushima

福島町はつつ創り

位置／地勢

産業／漁業

産業／商工・観光

産業／農林

生活環境

保健／福祉

教育／文化

福島町の歩み

行政／議会



ごあいさつ

当町は、北は秀峰大千軒岳、南は紺碧の津軽海峡に面し、海岸は奇岩・怪岩の絶景が続く岩部海岸を有する自然豊かな町です。

北海道初の横綱である「第41代横綱千代の山」と国民栄誉賞を受賞した「第58代横綱千代の富士」の生誕地であり、「横綱千代の山・千代の富士記念館」の周辺は、大相撲に関連した街並みが整備されています。また、トンネル技術を結集して完成した世界最大の海底トンネル「青函トンネル」は、「福島町青函トンネル記念館」において世紀のドラマとして実感できます。

このように、町にとっての大きな素材を生かしたまちづくりを進めておりますが、この要覧を通して本町の現状をご理解いただければ幸いです。



町長 村田 駿

福島町長 村田 駿

漁業発祥の地、青函トンネルの地。

町章デザインに込めた誇り。



町章

●福島町は本道漁業の発祥地。町章には往時のニシン漁に使われた「保津船」と「フクシマ」の文字でデザイン化したもの。

●構図は大千軒岳と青函トンネル工事基地を表している。また、二つの外輪によって、旧福島町と吉岡村の合併による協和発展を象徴し、町村合併20周年記念として昭和50年11月3日に制定された。

●位置と特徴。

海峡の潮流が創った海岸美。

●福島は北緯41度28分52秒、東経140度15分18秒に位置し、西は松前町、北西は上ノ国町、北東は知内町にそれぞれ隣接している。南東は津軽海峡に面する北海道最南端に位置している。

●総面積187.19平方キロの大部分は山林で、秀峰大千軒岳や変化に富んだ道南の知床と呼ばれる秘境の海岸線など、豊かな自然に恵まれている。

●気象は対馬海流の影響を受けて道南では最も高い平均気温を示し、年間を通じて温暖で快適な気候に恵まれている。



●町花／ヤマユリ
ヤマユリ自生地は北限であり、減少傾向にあったヤマユリを町民の象徴として保護、育成管理を進めている。



●町木／スギ
大千軒岳の恵み、道南スギは古くから人工造林が行われ、緑豊かな町の誇りの象徴である。

町民憲章

私たちは、北海道漁業のさきがけとして拓かれた海峡と、大千軒岳の自然にはぐくまれた、歴史のかおり高い福島町の町民です。私たちは、先人の偉業をたたえるとともに、未来にたくましく生きる豊かな福島町を築ききます。

- 健康で、互いに尊重し、楽しい家庭をつくります。
- きまりを守り、助け合い、明るい町をつくります。
- 自然を愛し、環境をととのえ、美しい町をつくります。
- 知性を高め、文化を育て、学びあう町をつくります。
- 生産のくふうをし、元気に働き、豊かな郷土をつくります。

fukushima
福島町はつらつ創り

※知恵とハートで拓くまち…【産業/漁業】

東西を結ぶ、豊かな海峡。

●太く結ばれた「海峡の道」。
イカ、昆布、マグロの海。

●イカ漁のメッカであり、日本一のスルメ生産量を誇る福島海。好漁場は他に先駆けて昆布、アワビ、ヒラメ等の養殖や中間育成事業を進めてきた成果でもある。漁場の活力が持続し、生産量の安定感など漁業経営に着実に実を結び、確かな展望が持てるようになった。

●福島漁業の目玉であるイカ漁やマグロ一本釣り漁を始めとする、鮮魚の価格向上の検討、海面の有効利用についても取り組みを深めている。



資源管理型漁業

●種苗、放流、中間育成、養殖など、これからの漁業はさらなる技術の向上を図り、新しいシーファーム「育てる漁業」へと向かっている。

●ウニの種苗、ヒラメ稚魚の放流、昆布養殖等資源管理型漁業の推進によって安定生産の拡大と漁獲物の付加価値向上を進めている。
ウニのむき身加工試験、ガゴメ昆布の養殖試験、イトウの飼育試験などが継続事業として進められている。



●コンブキし



●イトウの稚魚



●ウニ

港湾整備

●港湾整備では、漁港漁場整備長期計画の見直しを図り随時進めるとともに、港をコミュニケーション空間とした見直しを進めている。

●月崎海岸を「横綱ビーチ」のネーミングで海中プールを中心としたマリンレジャーエリア計画の実現につとめている。



●月崎海岸「横綱ビーチ」建設中



二つの記念館。

持続可能型観光産業

●福島町の強力な縁から生まれた、二つのミュージアム、「横綱記念館」「青函トンネル記念館」への入場者推進対策を積極的に進めている。郷土から生まれた二人の横綱の栄光を中心にまちづくりが進められている。街の照明、橋の欄干デザイン、ストリートネーミングなどに相撲が生かされ、「お相撲さんが居るまち」のイメージが定着しつつある

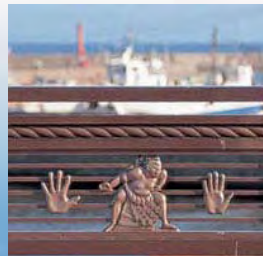
●商店街の「横綱街道」

大相撲文化が点在する「横綱のまち」。横綱をデザインした街路灯や橋の欄干には横綱の土俵入りがデザインされたユニークな街並みだ。

●青函トンネル記念館は、新幹線が海を超える世界最大の海底トンネル建設の土木技術が収められた建設技術集積施設でもある。海底トンネルが地上に浮上したという物語的デザインがユニーク。貴重な展示資料の他、施設の広場では朝市等のイベントが催され、集客効果が高まっている。



●横綱千代の山 千代の富士記念館



●横綱の街並を彩る横綱橋のでデザイン



●青函トンネル記念館 内部展示場



吉岡温泉 ゆとらぎ館

露天風呂など、8種の湯煙。

● 特産のスギ材をふんだんに取り入れた施設が懐かしい郷愁に包まれる。スギの森を眺めながら湯舟を楽しむ大浴場の他、総檜づくりの露天風呂、泡風呂やサウナなど8タイプの入浴施設が整っている。



泡風呂



大浴場

豊かな自然の恵み特産品

天然の恵みの新鮮朝市

● 青函トンネル記念館前の広場は、福島とれたて産品の朝市やイベントなどが開催されている。



女性の守護神川濯神社の奇祭

女だけの相撲大会の土俵

● 横綱の里の名物イベント、「女だけの相撲大会」が行われる土俵が鏡山公園相撲場。大相撲本場所の土俵に引けをとらない本格的な土俵。ここでは小・中学生の相撲大会等も開催される。



鏡山公園相撲場

●秘境という未知なる領域
童心に還る玩具岩の連続。



●松前町の白神岬を中心に、福島町と知内町にまたがる約30キロの海岸は、道南の知床といわれ、最近まで人跡を阻み続けた奇岩怪石が連なる不思議地帯です。荒々しさと共に幻想とロマンの世界へ。

●福島市街から岩部に至る交通手段が整備され、途中の白糸の滝、女郎崎、ミサゴの滝などを眺めながらのドライブを楽しむ事ができるようになった

●岩部港から船でシタン岩、耳岩等変化に富んだドラマチックな海岸線へ進むとやがて矢越岬へ。ここは人跡を寄せつけない自然が残されている。

●福島町は、この貴重な海の資源を守り続けると共に、「横綱記念館」「青函トンネル記念館」というユニークなアミューズメントを中心とした、新しい時代の観光産業を思い描きながら歩みはじめています。すでに「女だけの相撲大会」「殿様街道ウオーク」等、福島町の個性から生まれたイベントイメージも高まってきました。



EVENT 町の厚い歴史に 導かれた。

●やるべ福島イカまつり:

夏のフィナーレを、弾けるパワーで彩る。
夏合宿中の九重部屋の力士達や、地元町民、帰省客や
観光客が交わって町中祭り一色!!



●イベント広場では2千人分のチャンコ鍋が振舞われる。



●漁師さんが釣ってきたイカを生簀に放し、イカ釣り大会



●九重部屋夏合宿中の力士達と「綱引き大会」

●その他の主なイベント



●殿様街道ウォーク: 松前を結ぶ古道をウォークし古を体験するというイベント。千軒ソバと花の観賞会が開かれる。

●ソバの花観賞会: 千軒地区のソバ畑の風景を見ながら十割ソバに舌鼓という趣向。



●えぞキリシタン殉教の地: キリシタン弾圧により信者106人が処刑された千軒金山番所跡に受難碑が建てられ、毎年7月最後の日曜日に巡礼ミサが行われる。

●南北海道駅伝競走大会: 道内から約150チームが参加し、11月に開催される。



●名産品「千軒ソバ」

注目浴びる千軒ソバ

●ジワリと人気に登り調子の千軒そば。ソバ畑を望みながら千軒十割ソバを味わう素朴な趣が、ちょっとしたブームになっている。地場産品で作る漬け物などの商品化、水産加工品と共に、農産品の強化を図り産地から新しい食文化の提案を目指すと共に、作付け面積の拡大支援等を行っている。



●千軒10割りソバ

●「横綱椎茸」のブランド急上昇。原木による椎茸のハウス栽培で、北海道産の椎茸という事でも珍しがられている。原木確保と生産・販売支援に努めている。



●「横綱椎茸」栽培

●農村生活工夫展

福島町生活改善グループの主催による福島町農村生活工夫展が、12月に福祉センターで行われる。漬け物や食品加工品の味見をしたり、豆類等の販売も行われ、開店早々販売コーナーの前には多くの人々が訪れている。



●農村生活工夫展

●木のニーズも知識も高い。

輸入材との競合で国内の林業は建て直しが迫られているが、木に対するニーズや知識は高まっている。福島町の林業はスギ材が大半を占め、伐期を迎える林部も多く、「道南スギ」としての優良材の生産に努めるとともに、豊かな森林資源の保育管理を進めている。

●生活環境

新幹線着工、
交通体系の再構築へ。

●新幹線着工に伴い、交通体系の再構築が求められている。安全確保、地域的な道路のあり方、緊急度など国道、地域高企画道路、道々、町道の、それぞれの役割と共に進めている。



●ゴミ処理／防災

大きな快適、安心へのステップ。



●ゴミの減量作戦として、なまゴミの堆肥化を目指し、コンポストや電動処理機等の購入を助成を実施している。ゴミの不法投棄防止対策としては環境監視員等の巡回強化等を追求している。

●毎年沿岸部の町内会を対象として、避難訓練を実施している。しかし地域住民の高齢化により初動活動での不安が残る事が、有事の際には公的機関と地域住民が連携して迅速に対応する体制整備に努めている。

●町営住宅は、建替事業としての工事が丸山地区において進められており、既存住宅についても適切な維持管理についても適切な維持管理に努めている。



●子育て支援

安心して仕事ができるように。

●子育て支援 社会環境の変化により、子育てを支える保育所の役割は重要になっており、次世代育成支援行動計画に基づいた保育体制の充実を図っている。低学年の児童を持つ家庭において保護者が安心して仕事ができるよう、放課後保育に欠ける児童を対象に、福島小学校の空き教室を利用して学童保育を実施している。



●ニーズに即した保育事業

子供の挙動から、愛を学ぶ。

●社会的な少子化傾向の波の中で、幼児人口が減少している反面、共働き家庭や母子家庭は増加傾向にある。このような状況を踏まえて、保育時間の延長の他、時間差出勤などにより一時的に家庭保育が困難となる児童に対しての「一時保育事業」を実施します。社会傾向の変化によって支援サービスのニーズが変化することを踏まえ、支援メニューづくりをきめ細かに進めます。



●高齢者支援

皆の温もりもらって、自立感。

●高齢者の一人暮らしや夫婦だけの世帯が増えている。高齢者が積極的に健康維持に取り組み、自立意欲を養う機会づくりを進めている。介護予防や生活支援・自立支援の一貫としてふれあいスポーツ大会・温泉優待事業・敬老会などのほか、既存の施設をフル活用しながら介護予防や生活支援の充実を図っている。

●健康フェスティバル 健康でいきいき暮らすことは家族皆の願いであり、毎年9月の第一日曜日に健康をテーマとした健康フェスティバルを行っています。福島医歯会、健康づくり推進員などの民間が中心となって、健康イベントを通じて住民の健康意識の高揚に努めます。



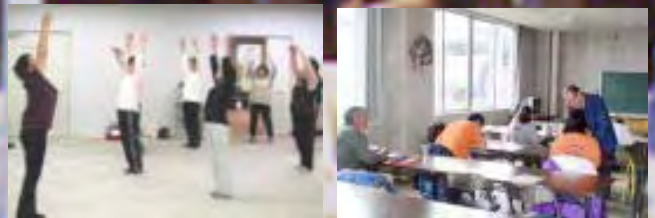
●健康フェスティバル

●障害者自立支援

積極的に機会づくり

●障害者自立支援 地域活動支援センターを中心に、障害者とそれを支えるボランティアの交流の輪が広がりをを見せており、自立に向けた就労意欲を促し、障害者が地域で自立できるよう支援しています。

●健康づくり支援 健康ウォーキング教室、健康料理教室及び国保ヘルスアップ事業を積極的に展開し、健康増進及び疾病予防対策を通じて将来的な医療費増加の抑制に努めている。高齢者の方々ができる限り健康で、生き生きとした生活を送ることができるよう、地域包括支援センターを中心に介護を推進します。



●心豊かな子供達の育成
「生きる力」を培う

●小子高齢化が顕著な中で、教育環境も急激な変化で進行している。このため家庭と学校、地域の関係をさらに強めながら、児童生徒を事件事故から守るため、あらゆる機会を通じて「生きる力」を培う教育を積極的に推進していく。町民憲章の理念と福島町教育目標に基づき「心豊かで逞しい子供達の育成」と「生涯学習」の推進を図り、教育のあらゆる分野において、「人間力」向上のための教育改革を推進していく。

- 知育・徳育・体育・食育の調和のとれた教育を行い、豊かな心・健やかな身体を育むための学校づくりを目指す。
- 子供達が被害者となる犯罪から守るために地域ぐるみの体制を築き、犯罪・事故防止教育を関係団体・機関と連携を図り進める。
- 国際感覚を高めるために、語学指導を行う外国人招致事業を引き続き推進する。



●田植え学習



●パソコン教室



●AET学習



●読み語り学習



●芸術文化に触れる機会を暮らしに。
郷土の文化財の継承保護

●北海道文化財に指定されている「宮歌文書」や既存の文化財等を保存活用するとともに、郷土芸能の継承や保護に努める。



◎白符荒馬踊り
武勇をあらわす、激しい舞。

松前藩による蝦夷地領定の武威を表す踊りと伝えられている。津軽ねぶたによく似た松前神楽の七穴竜笛の音曲にのって、馬上での戦いと勝利を舞うもので、「荒馬踊り」「棒振り踊り」「きね振り舞」「セヤセヤ舞」の4種類で構成され、白符七夕祭り家イベントでも舞われている。



◎松前神楽
エゾ地方初舞の神楽。

寛文2年(1662)頃、太陽も月も真っ赤に浮いているだけで、国中が灯火をともしほど暗い日がつづいたことから、村人たちが暗雲無消を祈って神明社(現・福島大神宮)で神楽奉納をしたのが始まりとされている。これが蝦夷地方初舞の神楽として知られ、北海道無形文化財の指定を受けている。

◎大名行列
福島大神宮例大祭

毎年9月14~17日の4日間、秋を彩る福島大神宮例大祭。古式ゆかしい大名行列をはじめ奴行列、四カ散米(しかさご)行列が続ぎ、10数台の山車が町中を練り歩き、見物客を時代絵巻の世界へ誘います。



その残党が、和人初の蝦夷地定着。

福島町の開基は、文治5年(1189)源頼朝の奥州征伐の際、破れた奥州藤原の残党が津軽から逃げ渡り吉岡村に定住したのが始まりとされている。その、奥州藤原は平泉に拠って陸奥、出羽の両国と蝦夷にまで勢力を伸ばした「北方王国の王者」といわれ、「平泉政権」と呼ばれるほどの地域政治を行っていた実力者だった。つまり、源氏・平家対立の時代は清盛、頼朝にならぶ第3の政権と目されていた。陸奥藤原は四代・一世紀に渡って栄華を誇り、特に三代目秀衡の時代が絶頂期。平家を倒した頼朝にも服従せず、当時国家の反逆人とされた義経を庇護した。この義経問題が引き金となって、頼朝は「奥州征伐」の兵を出し、奥州藤原を滅ぼした。藤原氏残党は四代目・泰衡の遺志を請けて、勢力を整え再び立ち上がるために津軽海峡を渡り、吉岡にも流人が定着したといわれている。

安東氏と武将達の到来。

津軽の十三湊に居住し、強力な水軍を擁する安東盛季が、南部義政に敗れ、息子や孫と共に蝦夷に渡来したのは永享四年(1432)といわれている。盛季の没後、松前で兵を貯えていた息子の安東康季が文安三年(1446)失地挽回の軍を津軽に出兵したが、鱒ヶ沢(西津軽郡)で陣没し、孫の義季は享徳二年(1453)大浦郷狼倉(岩木山東麓)で南部軍と交戦して戦死。この頃南部氏の捕虜になり糠部田南部に在った下国安東太政季は、南部氏から逃れて大畑(青森下北)から享徳三年(1454)、蝦夷地に渡航した。その時の随行武将は、後の松前氏の初祖・武田信広、松前大館の副将・相原周防政胤、箱館主の河野政道たちだった。政季は道南に12の「館」を配し、地域を統治した。福島町・吉岡地区には「穂内館」が置かれ秋田出身の蔭土甲斐の守季直が館主となった。季直没後、二世兵倉之介季成が継いでいる。

北海道史の第一歩を印す。

●道内初の漁師が定住したのも福島町で、白符地区が「ニンシ漁発祥の地」とされている。●大千軒岳の麓に金山が発見され、ゴールドラッシュに賑わった。金掘りの中には「隠れキリシタン」が紛れ、幕府の命によるキリシタン106名の処刑という悲劇も起った。●幕末にはこの辺一体が、新政府軍と旧幕府との激しい戦いの場となり、やがて新しい時代の幕開けを迎えた。●近代の福島町史のエポックは、青函トンネルの町として、世紀のトンネル工事にかかわりを持ったことだ。町民の中からも海原を駆け回って魚を追っていた漁師から、多くの世界的なトンネル技術者となって地底に潜り、貴重な人材として国内外で活躍している。

清盛、頼朝に並ぶ、
奥州、藤原の残党が定住。



行政

「みんなに見える・みんなの参加による・住民が主人公の町づくり」を町民と協働で創造するため、「活力ある水産業の推進」、「安全・安心、そして災害に強いまちづくり」、「まちづくり基本条例の制定」、「子ども達を育む教育環境の整備」、「自然を生かした体験型観光施策の推進」の5項目を最重要課題として、行政に取り組んでいます。



村田 駿 町長



竹下 泰弘 副町長



金谷 裕 教育長

議会

議会では、町の予算や条例、町政運営のあり方が審議され、町の進路が決定されます。議会の開催は年4回の定例と、必要に応じて開かれる臨時会があります。ここで議決された案件はただちに執行機関に回り、実行に移されます。町の仕事は、内容、量とともに、年々複雑になってきていることから、それぞれの議案などをより専門的、効果的に審議するために二つの常任委員会が設けられています。

福島町議会では、「町民起点」「町民主体の議会」という原点に立ち「開かれた議会づくり」を進め、町民の負託に応えるための取り組みを行っています。



溝部 幸基 議長



金沢 秀一 副議長